



当院では、手術支援ロボット「ダビンチ」を2018年に京都府北部で初めて導入しています。これまでは泌尿器科で前立腺がんの手術のみ行ってきましたが、ついに**適用対象を拡大！**昨年12月に入念な準備の末、**外科で直腸がんの手術**を無事に行うことができました。今後は結腸がんの手術もできるように取り組んでいきます。

そこで今回のれんけい君では、導入から4年経ちますが改めてダビンチのご紹介をさせていただきます。

### ■ダビンチを構成する3つの装置

#### 1. サージョンコンソール

ダビンチの**操縦席**です。手元のコントローラーでアームに装着された内視鏡・メス・鉗子を操作します。遠隔操作ですが同じ手術室の中、患者さんのすぐそばで操作しています。

このような画面を見ながら操作します。立体的で鮮明な映像が映し出されます。



コントローラー



足元にもスイッチが！内視鏡や鉗子の切り替えなどに使用します。



#### 2. ビジョンカート

ダビンチの**中枢**となる機器です。カメラの調整やハイビジョン3D画像にする処理などを行います。モニターには手術中の画像が映し出されスタッフ全員で進行状況を共有できます。



手術室の中には医師だけでなく、看護師、臨床工学技師などたくさんのスタッフがいます。



#### 3. ペイシェントカート

医師の遠隔操作で動く**4本のアーム**です。人の手を越える可動域と手ぶれ補正機能もあり、細かい手技を高い精度で行うことができます。手術中は滅菌のためにカバーをかけます。先端には小さい鉗子や内視鏡が付いています。



先端はとて小さい！



### ■ダビンチのメリット

- ・傷口が小さい
- ・手術中の出血量が少ない
- ・手術後の痛みが少なく回復もはやい
- ・精密で正確な手術ができる など

ロボット支援手術が万能というわけではなく、症例によっては適応とならない場合もあります。しかし今後適用範囲も広がりロボット支援手術が中心となっていくことと思います。舞鶴共済病院ダビンチの活躍にご期待ください！

